

[掲載紙] ぐんま経済新聞「にちぎんNOW」

[掲載日] 2012年1月26日

[テーマ] 豊かな冬に明日を思う

私にとって群馬の冬は、つくづく豊かです。

新潟から上りの新幹線に乗ると、上越国境を抜けた途端、それまでの曇り空の雪景色が、青い空と緑の山に一変します。「群馬の冬の明るさにはいつも驚かされる」。新潟に住む方は、そう漏らします。恵まれた陽光があります。

前橋に赴任して初めて知ったものの一つが「上毛かるた」です。この時期、県内の小学生はカルタ大会に向けて練習に励むと伺いました。この原稿を書いている今日は珍しく雪模様ですが、練習は続けられるのでしょうか。こども達が一生懸命練習する様子を微笑ましい思いで見守ったり、そうするうちに自分のこども時代の記憶が蘇ったり。地元の方とお話をしていると、上毛かるたによって受け継がれた県民全てが共有する伝統といったものを感じます。

前橋のあちこちに小さな神社が残っています。境内に地区の公民館が置かれていることもよくあります。人気のない神社であっても、手をすすぐ水盤に落ち葉がたまることもなく、清々しい水があふれている光景を目にします。きっと近所の方々が掃除をされているのでしょう。地域の結束の強さがうかがわれます。

ところで、日本社会の高齢化・人口減少ということが言われて久しくなっています。群馬県もその例外ではありません。群馬県の経済も高齢化・人口減少に対応できるようにその姿を変化させる必要があります。これまでと同じであろうとすれば、時代に取り残されるだけです。

そのためにどのような道を進むべきか。その答えは一つではありません。産業によって、地域によって、企業によって異なるはずですが、しかし、どんな場合であっても今の姿を抜きにして将来を考えることはできません。気付いているかいなかにかかわらず、さまざまな「豊かな今」があるはずですが、それらをとらえ、活かしてこそ、それぞれにふさわしい明日を形作れるのではないのでしょうか。

年が明け、将来の姿を思い浮かべながら、今の事業のあり方をどう変えていこうかと計画を練っていらっしゃる方も多いことでしょう。日本銀行は現在、強力に金融緩和を進めています。その下での低い金利水準と資金調達をしやすい環境が、明日に向けた挑戦をサポートするものになればと願っています。

〔 日本銀行前橋支店長
竹澤 秀樹 〕